

近年、電子書籍を利用したり、オンラインで書籍を購入する機会は増加している。これに伴って、オンライン環境で自身の情報ニーズに合った書籍を探索する機会も増えると予想される。一方で、ユーザーがキーワードを選択して検索を行うという現在の検索システムでは、ユーザーが高い検索能力を持っていることが求められ、課題が残っている。電子図書館サービスがまだまだ整備されている途中であることを考慮すると、オンライン環境で行われる書籍探索の多くは、オンラインショッピングサイト上で行われると考えられる。オンライン環境における書籍探索では、探しづらく、網羅的な検索が行われたのか確信が持てないなどの問題があり、ユーザーの探索行動を分析し、検索システムの改善を検討する必要がある。そこで本研究では、オンライン環境で行われる書籍の探索に有効な検索機能を検討するために、現在利用されているオンライン環境で書籍を購入できるサービスが、ユーザーにどのように使用されているのかに注目して実験を行う。これにより、オンライン環境で書籍を探す場合の、ユーザーの探索行動について分析することを目的とする。

本研究では、思考発話法を用いて、探索課題を実行してもらった被験者実験を行った。実験参加者は、被験者の普段のオンラインショッピングサイトでの探索行動を分析するために、ある程度オンラインショッピングサイトの利用経験があり、電子機器の操作に難がない被験者を募るのが最適であると考えられるため、18～22歳の大学生とした。実験では、(1)娯楽的な読書における探索、(2)調べものにおける探索、(3)曖昧な手懸りから書籍を特定する探索の三つの課題を実施した。課題実行中は考えたことや感じたことを発話してもらい、課題実行中のPCの画面と、音声を記録した。また、被験者の仕草などが記録できるように、被験者とPCモニターが映るようにカメラを一台設置し、録画を行った。課題の実行後、事後インタビューと、被験者の普段のオンラインショッピングサイト利用状況などを尋ねる質問紙調査を行った。

実験の結果から、オンラインでの優れた書籍探索に必要な能力として①検索システムが何をどのように検索しているかについての理解、②検索システムに合わせて検索語を選択する能力の二つがあることがわかった。特に後者の能力に関しては、SNS等の様々なサービスで検索機能を利用することが、能力向上に関係する可能性が示された。また、オンラインでの書籍探索の特徴として、情報に決まった配置がないために、購入を検討していた書籍を見失うという混乱が度々起こること、表紙から情報を取得したり、判断基準にしようとする傾向が強いことなどがわかった。

一連の調査の結果から、オンラインでの書籍探索の特徴と、オンラインでの書籍探索時にも探索者の知識構造に変化が見られることが明らかになった。

(指導教員 池内淳)